

佐々井秀嶺仁和寺講演

南天鉄塔考察

“汝速やかに南天龍宮城へゆけ
南天鉄塔またそこにあらん哉”

インド仏教復興にその身を捧げる佐々井秀嶺師は、自らを龍都ナグプールに導いた龍樹菩薩の言葉に従い、マンセルの地に壮大な仏教遺跡を発見した。

インド現地の資料を渉猟し、各地の遺蹟を踏査。自身の歩む菩薩道の視点から、事理不二の鉄塔を開顕する。

従来の南天鉄塔研究に新しい知見を投ずる、佐々井秀嶺4年ぶりの来日特別講演。

御室仁和寺の地で、真言密教の源流を探る！

令和5年6月25日(日)

13:00 開場 13:30~16:00

場所:総本山仁和寺 大内の間
(京都市右京区御室大内33)

佐々井師講説の後、研究者による検討会を行います。
登壇者

宮本光研 (真言宗御室派元教学部長)

松本峰哲 (種智院大学人文学部仏教学科教授)

中村龍海 (マンセル遺跡研究者)

定員:60名

参加費:1000円

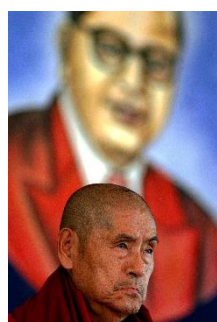
当日会場にてお支払ください。

お問い合わせ:南天会
nantenkai@gmail.com
090-5304-8955(佐伯)

真言密教発祥の根本聖地、南天鉄塔。空海の付法伝に記された密教相承の伝説をめぐり、古来より様々な議論が交わされてきました。近代にいたってインド現地の遺跡調査も行われ、その実像に迫ろうとする研究も行われています。
「龍樹菩薩の霊告」という宗教体験により、単身インド・ナグプールへ入り、B.R.アンバードカル博士の仏教復興運動を継承した佐々井秀嶺師は、その体験におけるもう一つのテーマとして、南天鉄塔の探索、龍樹菩薩の顕彰に取り組んできました。インド全土の龍樹菩薩関係遺跡を踏査し、また日本の研究論文に加えて、英文資料、インドの考古学文献や碑文などにも広く目を通し、南天鉄塔を追い求めてきました。そして自ら発掘したナグプール北郊のマンセル遺跡こそが南天鉄塔であるとの確信に至ったのです。

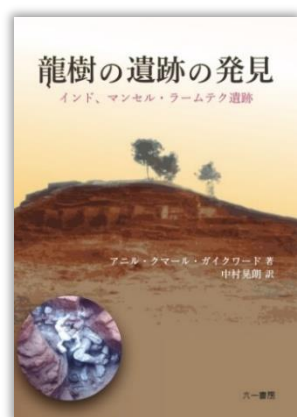
2015年高野山大学にて行われた佐々井秀嶺高野山講演「私観南天鉄塔」ではじめて佐々井師のマンセル研究が発表され、その説を口述筆記した『龍樹と龍猛と菩提達磨の源流～サータヴァーハナ王朝・パーンドゥ王朝・ボーディ王朝』（中村龍海筆録編集）が発行されました。2016年、京都産業大学講演「我が龍樹の地・マンセル」では、考古学、発掘調査の研究者が集い、マンセル再発掘に向けての展望が示されました。またインドに於いて佐々井上人が設立した龍樹菩薩研究記念協会から発行された、A.K.ガイクワード著「龍樹の遺跡の発見～マンセル・ラームテク遺跡」が中村龍海氏により翻訳、2018年に出版刊行され、6月京都国際交流会館にて佐々井秀嶺来日特別講演「龍樹の遺跡の発見」が開催されています。

佐々井師は、仁和寺所蔵の「南天鉄塔図（瑜祇塔図）」を参見する機会に接し、その写しに詳細な書き込みを行い自らの南天鉄塔説の根拠となしています。いわば佐々井師の南天鉄塔研究の根幹に仁和寺南天鉄塔図が位置していると言えます。佐々井師は、88歳の現在もなおインド現地の更なる遺跡発掘調査を準備し、鉄塔開頭の機を願っています。佐々井師4年ぶりの来日に際し、南天鉄塔追求の端緒となった仁和寺において、その講説を聞き、研究者による討議を行います。



佐々井秀嶺(1935～)

岡山県新見生まれ。東京高尾山薬王院にて山本秀順師について得度。龍樹菩薩の霊告に従ってインド・ナグプールに入り、以来50年、現地の仏教徒と寝食を共にし、アンバードカル博士の仏教復興運動を継承。インド名 Arya Nagarjuna Shurei Sasai。およそ1億人とも言われるインド仏教徒の最高指導者。大菩提寺返還運動を主導し、インド政府の少数者委員会仏教代表に就任。1994年アンバードカル国際平和賞受賞。今なお仏教徒の社会運動の先頭を行く。現在88歳。



龍樹の遺跡の発見

インド、マンセル・ラームテク遺跡
A.K.ガイクワード著／中村龍海訳
六一書房(2018年)A6版598p 定価(本体5000円+税)

龍樹菩薩記念研究協会発行のマンセル遺跡研究書を邦訳。これまでの発掘調査の概要に加え、先行研究の紹介、伝承や古書、新聞記事などによりマンセル・ラームテク遺跡とナーガールジュナの関係を詳説。医師でもある著者は龍樹の医学・科学等への貢献にも注目する。龍樹の歴史の実像にもっとも迫った龍樹研究第一級の資料。中村龍海氏の献身的努力により邦訳完成！

当日会場にて販売 特別価格 4000円

※定員を超えた場合、入場制限させていただきます。
※会場へは、本坊旧玄関からお入りください。
※会場に佐々井師活動支援の募金箱を設置しています。
是非ご協力ください。

